

エネルギー問題におけるリスク・コミュニケーション

(1) 共に考える姿勢が示されることの意味（予備調査）

Risk communication in energy issues

(1) What it means to show a willingness to thinking together (Preliminary survey)

* 冨田 幹宏¹

¹ 原子力安全システム研究所

エネルギー問題は、様々なリスクを扱う難しい問題である。情報の送り手が、ある解決策の利点やリスクに対して安全性を確保するための事実や科学的に証明された情報を提供したとしても、その受け止めに疑義が残る傾向がある。このような状況においては、受け手が自然な形で情報を共有する雰囲気が大切であり、共に考えることが重要となる。本稿は、送り手が共考の姿勢を示すことの意味の検討を行っている。

キーワード：エネルギー問題、リスク・コミュニケーション、共考、デプスインタビュー、会場調査、Web 調査

1. 緒言

リスク・コミュニケーションの要件のひとつされる共考の影響に着目した調査を行った。多くのリスク・コミュニケーションの現場では、その冒頭において「理解していただくための情報提供をしたい」といった進め方が多い。この冒頭の進め方を「共に考えるための時間を持たせてほしい」と宣言して、共考の重要性を示し、共に考える場をつくることで円滑な対話が進むのではないかと考えた。

2. 方法

この2つの進め方の違いを確認するために、2種類の音声動画を作成して予備調査を行った。調査は3回に分けて実施した。調査Ⅰでは、同じ参加者が動画A（情報提示条件）と動画B（共考条件）の両者を視聴し、それぞれの評価を行う会場質問紙調査およびデプスインタビューを実施した。次に調査Ⅱでは、実験協力者を2群に分け、一方には動画A、もう一方には動画Bを提示し、会場質問紙調査で違いを確認する。調査Ⅲは、調査ⅡをWeb上で実施した。

3. 結論

調査Ⅰでは、共考の姿勢を取ることであきらかな差を確認することができた。調査Ⅱでは、調査Ⅰほどの大きな差はなかったが、「中立・公平な話と感じる」と受け止められる場合に有意な差が見られた。調査Ⅲは、「自分の意見が言いやすい」の評価で動画B（共考条件）がよいとされたが、僅かな差しか認められなかった。対象層別に差を見ていくと「社会問題に関して詳しくないと考えている層」や「原子力発電の態度に関してやや慎重な層」では、「中立・公平な話と感じた」や「自分の意見の言いやすさ」といった双方向性に関する評価において有意な差が見られた。今後、本稿の調査結果を参考に、送り手側の要因や受け手の側の要因を検討し、リスクに対する理解の深まりに対して、共に考える姿勢を示すことの重要性を明らかにしていきたい。

参考文献

[1] 木下富雄(2016). リスク・コミュニケーションの思想と技術 共考と信頼の技法. ナカニシヤ出版.

*Mikihito Tada¹

¹Institute of Nuclear Safety System, Inc.